

What's up, OITA!

世界で活躍する県人会員と留学生OB、大分県関係者の皆さま方に、大分の「今」をお伝えします。
《Vol. 81》2019年11月発行

なつかしい我が故郷～大分ふるさと写真館～ 【宇佐市／豊後大野市】



(宇佐市)
安心院ワイン



(宇佐市)
福貴野の滝



(豊後大野市)
豚ホルモン



(豊後大野市)
用作公園

ラグビーワールドカップ2019™日本大会 大分で5試合が行われました！

ラグビーワールドカップ2019™日本大会 大分では5試合が行われ、スタジアムには、国内外から計17万3千人の観戦客が来場しました。特に準々決勝2試合は国外からの観戦客が多く、まるで外国にいるような雰囲気でした。



また、JR大分駅南側に設置したファンゾーンにも、約11万5千人が来場し、ビールを片手にパブリックビューイングを楽しんでいました。ファンゾーンでは、大分県産フィッシュアンドチップスやおおいた和牛、からあげ、日田やきそばなど大分のグルメのほか、足湯やラグビー体験、書道、くにさき七島蘭ミサンガ作りといった文化体験ができるブースが大人気でした。



県内各地の観光地や飲食店も選手や海外観戦客等で大変賑わい、ラグビー観戦とともに大分の魅力も十分感じていただけたと思います。



「アジア3か国の農村をつなぐ」演劇ワークショップ(安心院高等学校)

安心院高校は、昨年6月から総合地球環境学研究所(京都市)が進める国際事業「楽しい農業プロジェクト～演劇ワークショップでアジアの農村をつなぐ」(トヨタ財団助成)に日本側実践校として参加してきました。これは農業をテーマに東ティモールとフィリピンの10校の高校生と交流し、互いの歴史や文化等について学習することで、地域や社会の現状・課題を理解し、刺激・共感しながら「魅力ある地域づくり」や「将来の在り方」を考えようとする試みです。



フィリピン舞踏

9月27日(金)には、安心院文化会館で発表会が行われました。東ティモールのアタウロ農業高、レテフォホカトリック高、フィリピンのバンバン国立高も参加し、国民的ミュージシャン、エゴ=レモスさん(東ティモール)の演奏にあわせた歌や、民族衣装を身に着けたフィリピン側参加者による農村舞踊等が披露されました。



東ティモール発表

「自然と人の共存」を意識した安心院高校は、バイオベッドによる豚の放牧を題材にした演劇「マイ・ブー」やテレビドキュメント「アグリカルチャーショック」等を発表し、会場から大きな拍手を受けました。



集合写真



「マイ・ブー」

めじろん海外サポーターレポート「コロンビアの旅」～第3弾～

お久しぶりです！私はめじろん海外サポーターのシャンテル・ディッカーソン(Shantel Dickerson)です。今回めじろんは「パネラ」を作りました。

※パネラとはサトウキビから作られた天然の砂糖。

めじろんはコロンビアのサンラファエルにあるパネラ工場を訪問しました。まず、サトウキビを砕き、次に、ゆでます。しばらくすると、このサトウキビジュースは濃厚なソースになります。

ソースは木製の型に注がれ、乾くと砂糖の堅いブロックになります。冷めたら、包装して販売します。本当に甘くて、コーヒー、ジュース、焼き菓子に使われます。



シャンテルさんは、2016年7月～2018年7月まで別府翔青高校でALT(外国語指導助手)として勤務し、帰国の際にめじろん海外サポーターに任命されました。

李 婷(り てい) 研修員レポート -長湯温泉-



10月5日、私は長湯温泉へ行きました。大分駅前からバスで2時間ぐらいで到着しました。道中では、黄金に輝く稲穂とオレンジ色の柿に至る所で見ることができます。

長湯温泉は静かな田舎にあり、炭酸泉で有名です。ガニ湯は蟹の形みたいで道路と川の間であり、美しい伝説があります。ガニ湯に入る場合は、傍の橋の下で着替えができますが、本当に勇気が要り、私は入ることができませんでした。ガニ湯の傍のガニ湯本舗「天風庵」で川蟹うどん料理を食べました。ボリュームもあってとても美味しかったです。

私は、丸長旅館の和室で一晩泊まりました。一階の室内に貸しきり温泉が三つあり、ヘルシーな懐石料理で、新鮮な野菜と刺身がたくさんあります。本当に素晴らしい体験で、忘れられない思い出になりました。

また、ラムネ温泉館と温泉療養文化館御前湯とクアパーク長湯で温泉に入浴しました。特に、ラムネ温泉館の露天温泉は温度が32度ぐらいで、体が銀色の泡で包まれて気持ち良かったです。

今回の旅で、日本の田舎の秋の風景と炭酸温泉を味わえ、この上ない幸せでした。



海外大分県人会交流掲示板



10月9日に、ブラジル大分県人会の矢野敬崇名誉会長が来庁されました。矢野名誉会長は、10月1日に東京で開催された海外日系人大会に参加された後、大分県へ足を伸ばしていただき、ブラジル大分県人会のことやブラジルの近況等について、知事と懇談を行いました。



矢野敬崇名誉会長（左から2番目）

市町村からのお知らせ【由布市】

【由布のやさしさに包まれて】

屈指の観光地由布院地域は、「由布岳」を望み、温泉等豊かな自然との調和を図っています。

その中でも特徴的な場所として「金鱗湖」や「湯の坪街道」周辺は、地域の風情を守るため、景観対策をしており、その佇まいは「暮らしとともにあるおもてなし」として、国内外から多くのお客様に訪れていただいております。



由布市の観光情報についてはこちらをご覧ください。
<http://www.city.yufu.oita.jp/kankou/>

【国際交流への取組み】

8月17日、はさま興友会（後藤明会長）の主催で挟間地域で働くベトナム人技能実習生15人との交流会が開催されました。この交流会は、異文化理解や地域に溶け込むきっかけづくりのために企画されたものです。はさま未来館では茶道体験があり、学楽多塾で茶道を学んでいる小・中学生が浴衣姿で抹茶と菓子を技能実習生に振る舞いました。その後、向原商店街内で交流会が行われ、地域の方や興友会メンバーらと一緒にベトナム料理等を作りながら親睦を深めました。



【由布市 総合政策課/商工観光課】



Pick Up! 大分の「今」

県内の出来事（10月）

News

【10月8日(火)】大分×ウェールズ友好交流

大分市でラグビーW杯の試合を行った英国のウェールズは、「不思議の国のアリス」の舞台でありジブリ映画「天空の城ラピュタ」のイメージとされる場所です。県立美術館（大分市）ではそんなウェールズの文化に触れてもらおうと現地の作家の絵画や磁器を9月27日～10月27日の間展示しました。8日には同館で関連イベントが開かれ、観光地の紹介やウェールズ国立博物館で行われた日本美術展等についての講演がありました。他にも10日には大分オーパ（大分市中央町）内のレストランでウェールズ産ラム肉の「ウェルシュラム」のPR試食会も行われました。

News

【10月14日(月)】食べて叫ぼう！ゆふいん牛喰い絶叫大会

由布院で第45回由布院牛喰（く）い絶叫大会が行われました。当日は晴天に恵まれ、約650人（主催者発表）が来場しました。豊後ゆふいん牛のバーベキューを楽しんだ後、子どもから高齢者まで100人が広大な牧野に大声を響かせました。「ラグビー日本代表絶対勝つぞ！」や「みりんは酒のようにがぶ飲みできない。消費税10%はあり得ない！」といった嘆きまで時事ネタの入った絶叫は会場の観客を大いに盛り上げていました。

News

【10月26日(金)】豊後キリシタン文書マレガ・プロジェクト進行中

1929年来日しキリスト教に関する文書を集め、バチカンに持ち帰ったイタリア出身のマリオ・マレガ神父（1902～78年）。その古文書を保存・整理・修復・デジタル化するマレガ・プロジェクトが、バチカン図書館や県立先哲史料館などが参加し2013年から行われています。その研究成果の中間報告として26日に豊の国情報ライブラリー（大分市）で国際シンポジウムが開かれました。研究が進めば幕府のキリスト教禁制政策の過程が明らかになるとバチカン図書館長らが発表しました。プロジェクトは2021年3月頃に完了する予定です。

※国際政策課にて新聞等を元に作成

From our Reporters

県の国際交流員が、旬なOITA情報をお届けします。



童話の里、玖珠町にある「久留島武彦記念館」へ行ってきました。玄関に入ると記念館の職員の方が館内を案内しながら丁寧に説明をしてくれました。



金 眞雅
(Kim Jina)

館内は「久留島先生を学ぶ部屋」「ものがたりの部屋」などのスペースに分かれていて、その一角に10月から始まった企画展「韓国陶芸展～日本人が愛した現代陶芸の旗手たち～」が開催されていました。ここの館長は韓国の方で、記念館をオープンする前から企画を温めていたそうです。今回は企画展のお話や館長が久留島武彦を研究することになるまでのお話など、とても興味深い話が聞けました。ここに来る前までは久留島武彦についての知識はなかったのですが、実は多くの功績を残していたこと、韓国とのゆかりがあることなどを知ることができてとても楽しかったです。ぜひ、皆さんも「久留島武彦記念館」へ足を運んでみてください！



10月14日に国東市国見町で行われた「ケベス祭り」を観に行きました。木の面をつけた「ケベス」が火を守る「トウバ」と神社の境内で争っているシーンを観ていたら、いきなりケベスが火に突進し、炎が一気に高くなりました。



セーラ・バックレイ
(Sarah Backley)

初めての火祭りだったので期待は持っていませんでしたが、火のついた棒を持って観客を追いかけ回ったのは驚きました。振りまかれている火の粉に当たったら無病息災が叶うそうです。これを知った友達は回廊まで入りましたが、弱虫の私は安全性が少し疑わしかったので手水舎の後ろで隠れ、火の粉は浴びませんでした。

このような神秘的な祭りが日本の文化の最も良いところだと思います。



秋に入ると、空が澄んで見えるようになり、心身ともに爽快感を覚えてきます。夏のジメジメした空気が涼しい秋風に吹き飛ばされ、空気を吸ってみると気分も晴れるものです。そういう居心地がよく、スポーツ日和の10月8日に、大分の中学・高校生たちが、オーストラリアとウルグアイの生徒たちと朝早くからゆふの丘プラザと湯布院スポーツセンターでラグビー親善試合を行いました。始まったころには雨が降っていましたが、



シエ シンラン
(Xie Xin Lan)

生徒たちは雨天にもかかわらずピッチを疾走し、熱い勝負を見せてくれました。試合後、相手チームの選手と握手したり、お互いのパフォーマンスを褒めたりして、スポーツマンシップにのっとりラグビーの憲章の「品位・情熱・結束・規律・尊重」の精神も尽くしました。

この生徒の中の誰かが、いつか自分の国の旗を背負いながら世界のステージで活躍することもあるんじゃないかと思えば、彼らの希望の満ちた将来が楽しみでたまりません。



10月1日は中国の国慶節です。ネットで天安門広場前での閱兵式典を見て、大いに感動しました。それに、当日大分華僑華人会が主催した「中華人民共和国建国70周年--国慶節懇親会」に参加でき大変光栄でした。日本人の方が皆中国で半年以上留学したり、仕事したりした経験があり、中国語も上手です。会長は71歳で、日本で生まれ育った中国人です。中国語は話せないのですが、祖国を愛している気持ちは変わりません。



ピョウ センテイ
(Miao Zhanting)

また、中国のいろいろなところに行ったことあり、中国の事情に非常に詳しい日本人のお年寄りの方がいらっしゃいました。

ネット上で中国人は10代でも20代でも30代でも自分の国を愛している姿に感動したとおっしゃいました。皆中国語か日本語かで交流し合って賑やかで、楽しかったです。これから少しでも中日交流の力になりたい、できる限りのことをしたいという気持ちで国慶節を祝いました。また2月2日の春節祭も楽しみにしています。



県内の最新の観光情報はこちらから
ご覧ください！

(ツーリズムおおいたHP)

<https://www.visit-oita.jp/>

話題提供のお願い！



県人会の活動(懇親会等)や留学生OBの近況など、世界中の大分県関係者に紹介したい話題をお寄せください！(様式は任意です)

【記事提供/お問い合わせ先】国際政策課 担当:藤原【Mail】a10140@pref.oita.lg.jp